

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	理学・作業名古屋専門学校
設置者名	学校法人 たちばな学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科 I	夜・通信	330	320	
	作業療法学科	夜・通信	330	320	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://nagoya-college.ac.jp/information/disclosure/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	理学・作業名古屋専門学校
設置者名	学校法人 たちばな学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://nagoya-college.ac.jp/information/disclosure/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	住職	2021.10.1 ~ 2024.9.30	組織運営体制への チェック機能
非常勤	無職	2021.10.1 ~ 2024.9.30	組織運営体制への チェック機能
非常勤	大学教授	2021.10.1 ~ 2024.9.30	組織運営体制への チェック機能
非常勤	弁護士	2021.10.1 ~ 2024.9.30	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	理学・作業名古屋専門学校
設置者名	学校法人 たちばな学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>専門科目の授業計画(シラバス)には、①科目名、②授業形態(講義、演習等)③開講年次、④担当教員、⑤授業概要、⑥学習目標、⑦各回の日程と授業計画、⑧教科書及び参考書、⑨成績評価、⑩学生へのメッセージ(受講上の留意点など)を記載することとしている。また、東京福祉大学併修科目の授業計画(シラバス)には、①科目名、②開講年次、③担当教員、④授業のねらい、⑤教科書・資料、⑥設題、⑦各回の日程と授業計画、⑧成績評価(出席率、期末試験、授業内評価)、⑨備考(メッセージ)を記載することとしている。</p> <p>授業計画は、例年2月頃(前期)と7月頃(後期)に授業担当者が作成し、学科および教員間でチェックを行い、各学科の役職者(主任)が確認の上、最終的に学科長および教務課長が承認している。授業計画(シラバス)は、授業ごとに1回目の講義で担当者から学生へ配布しているほか、下記アドレスのホームページで公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://nagoya-college.ac.jp/information/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>専門科目は、定期試験、確認テストやレポートによりトータルで100%(100点満点)になるよう各科目担当が基準を定めており、欠席1回につき減点3点・遅刻1回につき減点1点としている。東京福祉大学併修科目は、東京福祉大学通信教育部の評価基準による(出席率30%、期末試験50点、授業内評価20点:中間レポート等)。</p> <p>期末試験本試験の受験資格は、原則、各科目出席率80%以上が必要となる。再試験の受験は、出席率65%~79%の者および本試験不合格者としている。試験において、60点以上得点した者を合格とし、当該科目の単位を認定する。(一部例外科目あり。シラバスにて詳細を記載している。)</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各科目の素点100～90点を「A」、89～80点を「B+」、79～70点を「B」、69～60点を「C」評価としている。Aを4点、B+を3点、Bを2点、Cを1点としてGPAを算出し、成績の分布状況を把握している。</p> <p>なお、客観的指標の算出方法等は下記ホームページで公表している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://nagoya-college.ac.jp/information/disclosure/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○理学・作業名古屋専門学校 理学療法学科 I 卒業の認定に関する方針</p> <p>急速な少子高齢化の進展により、リハビリを必要とする高齢者は、今後ますます増えていくことが想定される。医療と福祉の知識と技術を持ったリハビリスタッフの育成は、現代社会における急務の課題である。本校の理学療法学科は、身体に障がいを持つ人に対し、チーム医療の一環として基本的身体動作能力の回復のためのリハビリテーションを行う理学療法士を養成する学科である。また、当学科では、理学療法に関するカリキュラムに加え、東京福祉大学 通信教育部 社会福祉学部 社会福祉学科 社会福祉専攻にも同時入学し、社会福祉の専門知識や技術も身につけることができる人材を育成している。卒業は、各授業において出席率で期末試験受験資格(本試験80%以上、再試験65%以上)を満たした上で、試験及び実習等の評価、卒業判定試験で基準点に到達しているかを卒業判定会議で総合的に判断し、決定する。</p> <p>○理学・作業名古屋専門学校 作業療法学科 卒業の認定に関する方針</p> <p>急速な少子高齢化の進展により、リハビリを必要とする高齢者は、今後ますます増えていくことが想定される。医療と福祉の知識と技術を持ったリハビリスタッフの育成は、現代社会における急務の課題である。本校の作業療法学科は、身体又は精神に障がいのある者に対し、主としてその応用的動作能力、または社会適応能力の回復を図るため、手芸・工作その他の作業やリハビリテーションを行う作業療法士を養成する学科である。また、当学科では、作業療法に関するカリキュラムに加え、東京福祉大学 通信教育部 社会福祉学部 社会福祉学科 社会福祉専攻(2022年度以前入学生)、または心理学部 心理学科(2023年度以降入学生)にも同時入学し、社会福祉または心理学の専門知識や技術も身につけることができる人材を育成している。卒業は、各授業において出席率で期末試験受験資格(本試験80%以上、再試験65%以上)を満たした上で、試験及び実習等の評価、卒業判定試験で基準点に到達しているかを卒業判定会議で総合的に判断し、決定する。</p> <p>(卒業の認定に関する方針の策定と公表)</p> <p>各学科の目的等を考慮して策定を行った。公表については、下記ホームページにて行っている。</p> <p>(適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>令和4年度は、令和5年3月10日に卒業判定会議を実施している。卒業予定者の確定については、各科目の試験及び実習の結果、出席率等について担任より報告があり、協議の上決定した。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://nagoya-college.ac.jp/information/disclosure/</p>

